

コミュニケーション学の雑誌構造群

—愛知淑徳大学図書館所蔵学術雑誌でのステップマップによる分析—

The Structure and Interrelationships of Communication Science Journals: Analysis in Step-Map methods by journals held in Aichishukutoku University Library.

石黒裕子 (NTTシスコム(株)第二開発部)

逸村 裕 (愛知淑徳大学図書館情報学科)

ABSTRACT

Communication science is focused on scientific methods and applications of communication.

In this paper, by using bibliometrics methods, we investigate the citation patterns that suggest differences in communication research orientation. The data in the analysis are based on the citations that are obtained through Social Sciences Citation Index's Journal Citation Reprts. And we examine the citation linkages of communication journals, which are held in Aichishukutoku University library. The analysis method which is derived from Narin's technique of Step-Map is used to explicate the structure.

The Result shows communication science field has been separated in three fields, such as general psychology, developmental psychology and communication. And the results may be of interest to clection development for library.

1. コミュニケーション学とは

1.1 コミュニケーション学の位置づけ

「コミュニケーション」の学問的研究の歴史はきわめて古い。コミュニケーションの理論はアリストテレスがその修辞学において展開したモデルを発端としている¹⁾といわれるように、古くはコミュニケーション研究は言語学から派生したものと考えられていた²⁾。

しかし今日では、コミュニケーション学は言語学のひとつの亜流ではなく、多くの科

学領域からのアプローチを受けて成立している。なぜならコミュニケーションは「人間活動のあらゆる面でいつも生じている過程」であり、コミュニケーションの構造、内容、および流れとの関連において、すべての社会過程を分析することが可能である¹⁾からである。いかえれば、社会の諸活動すべてにコミュニケーションを研究する必要があるからであろう。

それゆえ従来の心理学、社会学、言語学、生物学などといった伝統的個別学問を「タテ割り」の学問というなら、コミュニケーション学はこれらの学問を”コミュニケーション”という主題によって、横に貫いて共通に成立するような、いわば「ヨコ割り」の学問体系をもつ。この学問体系を、飽戸は第1図にみるように「人文・社会科学・生物系自然科学・理工系自然科学」の4つの源流と10の研究領域に分類することができると述べている³⁾。

人 文 学	1. 言語学 2. 意味論 3. 境界言語学領域	10 情
社 会 科 学	4. 政治学 5. 社会・心理学 6. 文化人類学	報
生物系自然科学	7. 動物学 8. 脳神経医学・生理学・遺伝学	科
理工系自然科学	9. 通信理論・情報理論	学

第1図 飽戸による4つの源流と10の研究領域³⁾

1991（平成3年）、愛知淑徳大学文学部にコミュニケーション学科が開設された。ここではコミュニケーション学は「異文化コミュニケーション、コミュニケーション・メディア、地域コミュニケーション、個人コミュニケーションの4つの領域を柱に構成される」とされている。

本論文ではこの学科がどのような特徴を有しているのかをビブリオメトリクス的手法を用いて図書館所蔵誌より分析する。

1.2 図書館分類におけるコミュニケーション

コミュニケーション学は学際指向の強い分野である。図書館分類においてはコミュニケーション学はどのように位置づけられるであろうか。

1.2.1 日本十進分類法（NDC）によるコミュニケーション

NDC第8版では類目表（1次区分）、綱目表（2次区分）、要目表（3次区分）とも「コミュニケーション」はあらわれない。相関索引には以下の例示がある。

コミュニケーション（言語学）	801
“（社会学）	361.45
“（情報科学）	007.1

第2図 NDC相関索引によるコミュニケーション

愛知淑徳大学図書館を含め、日本の多くの大学図書館では分類法としてNDCを採用している。学術情報センターのNACISIS-CATで「コミュニケーション学」資料の分類付与を調べると、多くの場合は「361」もしくは細分して「361.45」を用いていることが多い。これは「社会科学-社会-社会学-」の位置づけであるといえる。

1.2.2 デューイ十進分類法（DDC）によるコミュニケーション

DDC20版によると「Communication」には「302.2」の分類付与が行われている。これは「Social Sciences-Social Interaction-」の位置づけであるといえる。索引によると、「心理学、コンピュータ、言語学のコミュニケーションはそれぞれの主題分野に収める」と指示がある。

1.2.3 米国議会図書館分類法 (LCC) によるコミュニケーション

LCCの「CLASS H 1980年版」によるとコミュニケーション学の分類は「HM 2 5 8」となっている。これは「Social Sciences-」の一分野の位置づけになっている。しかし、LCCではさらに詳細な区分がしてある。その例を「H (社会科学)」の索引からあげる。

‡ Communication
Child Psychology: BF723. C57.
in
management: HF5549. 5. C6.
police administration: HV7936. C79
of
information
industrial management: HF30. 3+.
Social Psychology: HM258.
Communication, Business: HF5718-5734.
Communication, Intercultural: HM258.
Communication and transportation, see Transportation and communication.
Communication systems
Banking: HG1708. 5.
Police administration: HV7936. C8.
Communication theory (Economics) : HB133
Communication, Confidential (banking) : HG1720. C5.

第3図 LCCのクラスH1980年版におけるCommunication

1.3 コミュニケーション学と図書館情報学

長い歴史を持ちながら、新しい装いを加えた学際的分野としてコミュニケーション学と図書館情報学には類似する点がいくつか存在する。

引用分析を用いて、コミュニケーション学と図書館情報学との相関関係を調べた先行調査によると、「ほとんど認められない」から「わずかな相互乗入れ」が確認されている³⁾⁻⁹⁾。

なかでも、Borgmanの1977年から1987年にかけてのコミュニケーション学雑誌と図書館情報学雑誌計96誌の引用調査によると、「コミュニケーション学雑誌に掲載された論文の引用に占める図書館情報学雑誌論文の割合」は最低の年が0.00、最高の年が0.

66%であり、11年間の平均は0.14%である。一方、「図書館情報学雑誌に掲載された論文の引用に占めるコミュニケーション学雑誌論文の割合」は最低0.00%から最高0.98%で11年間の平均は0.41%となっている⁹⁾。

2. 学術雑誌の蔵書構築

2.1 大学図書館での蔵書構築

大学図書館の学術雑誌の蔵書構築の手法としては数種類の方法がある。一般的によく用いられる手法には以下の例がある。

- (1)担当教員からの推薦
- (2)担当教員へのアンケート
- (3)類似分野をもつ他の図書館の雑誌リストとの比較
- (4)Ulrich's International Periodical Directory等の書誌を用いてのリストの作成
- (5)ビブリオメトリクスによる分析集計
 - a. 担当教員あるいは所属学生の発表論文の引用文献から
 - b. I S I社の Journal Citation Reports (J C R) を典拠とした引用分析

実際には日本の大学の場合、新設の際に文部省のチェックが入るため、一定の水準は保たれるとされる。しかし、ほとんどの場合、学部学科開設後の雑誌の新規選定あるいは購読中止はその大学任せであるのが実状である。

2.2 ステップマップによる学術雑誌の構造

2.1で触れたビブリオメトリクスの手法のひとつとして、学術雑誌の構造を明らかにしようとした試みにNarin他が提唱した「ステップマップ」の手法がある¹⁰⁾。これは、ある目的によって選別した雑誌（例えば主題分野）それぞれ（これをソース誌と呼ぶ）から、その雑誌がよく引用する他の雑誌へ向けて矢印を引く。その矢印はソース誌以外に向けてもよい。その雑誌が最も多く引用している1誌だけに矢印を引く場合を「1ステップマップ」、その次に多く引用している雑誌にも矢印を引く場合を「2ステップマップ」と呼ぶ。この際、自誌引用は除く。

この「ステップマップ」を作成することにより、分野間や雑誌間の特徴が視覚的に捉えることができる。例えば、その分野の内部の雑誌と他の分野の雑誌を区別して表示し、それぞれの矢印の数を比較することによりその分野の自己充足性がわかる。矢印が集中している雑誌がその分野の中心的な雑誌といえるが、そのような雑誌の有無やあるとすればどのような雑誌か、というようなこともわかる。また雑誌間が矢印で連結されているかあるいはバラバラとなっているか、といった特徴も知ることができる。

図書館の蔵書構築への応用としては、ソース誌以外の矢印が集中している雑誌をどのように取り扱うか、等が考えられる。

日本においてこの「ステップマップ」の手法を用いて主題分野の学術雑誌構造群を調査した例としては図書館・情報学を対象とした斎藤¹¹⁾、津田他¹²⁾、生理学を対象とした山崎他¹³⁾、理工学を対象とした緑川他¹⁴⁾の例がある。

3. 愛知淑徳大学図書館所蔵のコミュニケーション分野の学術雑誌構造

3.1 調査の目的

調査目的としては以下の3点があげられる。

1. 愛知淑徳大学図書館所蔵誌をソース誌とするコミュニケーション学雑誌構造の確認
2. 愛知淑徳大学図書館所蔵誌がコミュニケーション学科の情報要求に十分対応しているか
3. 図書館情報学との関係

3.2 調査方法

1991年時点での愛知淑徳大学図書館のコミュニケーション学科発注の雑誌を「ステップマップ」の手法を用いて分析することとした。

コミュニケーション学科発注で Social Sciences Citation Index の Journal Citation Reports (JCR) にデータが掲載されている雑誌 (ソース誌) は第1表の23誌である。このソース誌をもとに「1ステップマップ」、「2ステップマップ」、「3ステップマップ」をそれぞれ作成し、分析を行うこととした。

第1表 ソース誌とした23誌

American Journal of Community
Brain and Cognition
Child Development
Developmental Psychology
Environment and Behavior
Human Communication Research
International Journal of Intercultural Relations
International Journal of Psychology
Journal of Abnormal Psychology
Journal of Child Language
Journal of Communication
Journal of Community Psychology
Journal of Counseling Psychology
Journal of Cross-Cultural Psychology
Journal of Experimental Child Psychology
Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance
Journal of Experimental Psychology: Learning Memory and Cognition
Journal of Experimental Social Psychology
Journal of Memory and Language
Journal of Personality and Social Psychology
Media Culture and Society
Neuropsychologia
Psychophysiology

4. 調査結果

コミュニケーション学の学問領域が多岐に渡っていることは先に述べた。これが愛知淑徳大学図書館所蔵のコミュニケーション学雑誌群ではどのように表されているかを以下に述べる。

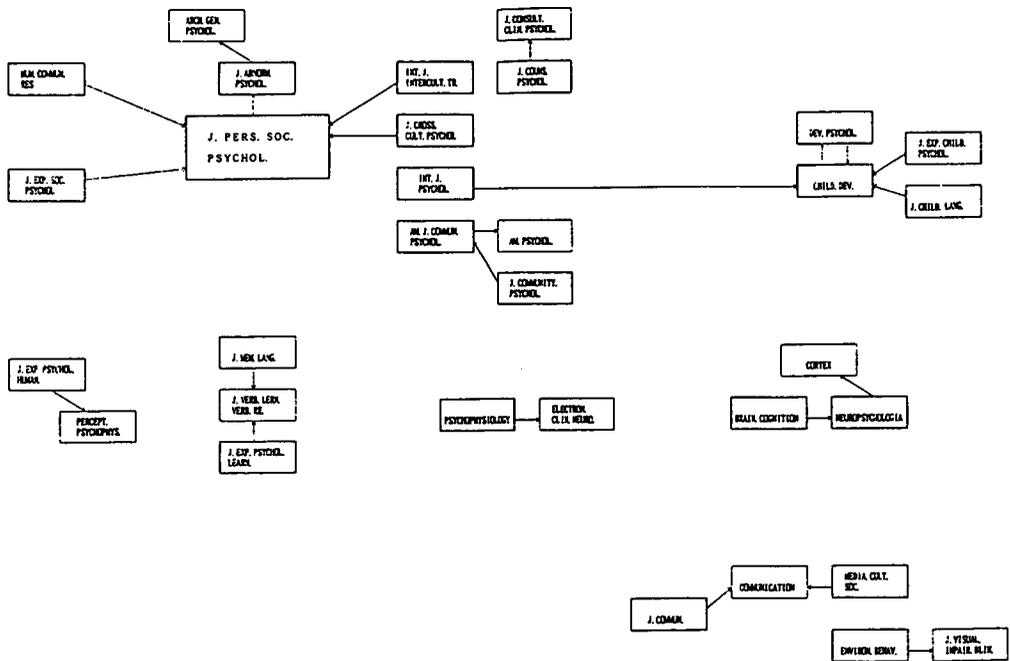
太線で囲まれているものがソース誌である。細線で囲まれている雑誌は愛知淑徳大学図書館に所蔵していない雑誌である。なお、雑誌名の省略形はISI社の方式で記してある。

4.1 1ステップマップによる結果 (第4図)

1ステップマップにはソース誌以外に9誌があらわれ、計32誌から構成されている。ソース誌以外の雑誌を第2表に示す。

群としては、左上の Journal of Personality and Social Psychology を中心とした群と右上の Child Development を中心とした「発達心理学」を中心とした群に分かれている。

個別にみると Journal of Personality and Social Psychology と Child Development が最も多い4誌からの矢印を集めている。



第4図 コミュニケーション学雑誌による1ステップマップ

1 ステップマップと比較した場合、群としては Journal of Personality and Social Psychology と Child Development を中心とした群が International Journal of Intercultural Relations を経由して1 ステップマップでみた「発達心理学」の雑誌群と連結し、全体で29誌からなる大きなグループとなった。これは「広い意味での心理学」の群と見ることができよう。

Child Development を中心とした発達心理学を主題とする群は Journal of Experimental Child Psychology と Developmental Psychology で、お互いに3誌間でのみ引用しあう形をとっている。

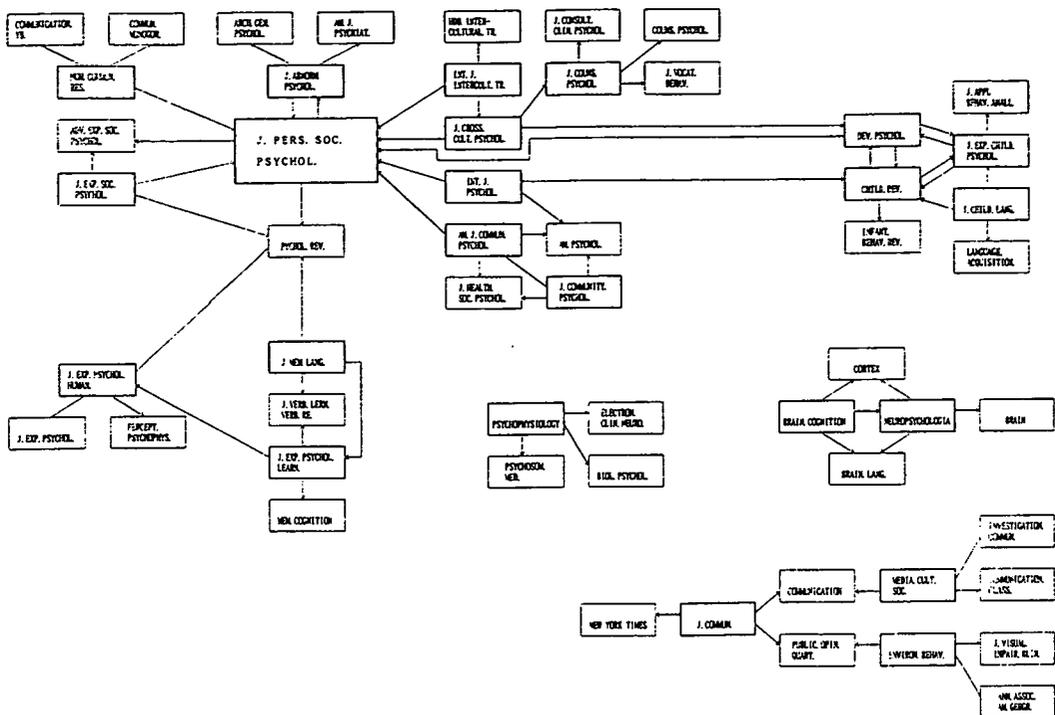
個別にみると Journal of Personality and Social Psychology が6誌、Child Development と Psychological Review が4誌からの矢印を集めている。

第3表 2 ステップマップに新たに現れる11誌

American Journal of Psychology
Biological Psychology
Brain and Language
Communiation Class
Communication Monographs
Jounral of Vocational Behavior
HDB. Intercultural Relations
Language Acquisition
Memory & Cognition.
Psychological Review
Public Opinion Quarterly

4.3 3ステップマップによる結果 (第6図)

3ステップマップには、2ステップマップに12誌が加わり、計55誌から構成されている。新たに現れた雑誌を第4表に示す。



第6図 コミュニケーション学雑誌による3ステップマップ

群としては Journal of Personality and Social Psychology を中心とした群が Child Development を中心とした群、そして Psychological Review を経由して Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance を中心とした群とゆるやかに結び付いている。全体の形としては2ステップマップと同様の形である。

その結果、ある程度のまとまりをもった群としては Journal of Personality and Social Psychology と Child Development を中心とした最大の群、Child Development を中心とした発達心理学の群、そして Journal of Communication を中心としたコミュニケーションの群の3つの群に分けられよう。

個別にみると Journal of Personality and Social Psychology が8誌、Child Development と Psychological Review が4誌からの矢印を集めている。

第4表 3ステップマップに新たに現れる12紙誌

Advances in Experimental Social Psychology
Annals of Association of American Geography
Brain
Communication YB
Counseling Psychologist
Infant Behavior & Development
Infant Behavior & Development
Investigation and Commynication
Journal of Applied Behavior Analysis
Journal of Experimental Psychology
Journal of Health and Social Behavior
New York Times
Psychosmatic Medicine

なお、実験心理学系の雑誌とされる Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance, Journal of Experimental Psychology: Learning Memory and Cognition, Psychophysiology, Brain and Cognition, Neuropsychologia をステップマップの中断に配したが、強い連結は見られなかった。

5. 考察

5.1 他のコア・ジャーナル調査との比較

調査の結果により2ステップマップは3つの群に分かれた。Journal of Communication を含む群以外の2つのグループはいずれも心理学領域の雑誌群といえる。これをさらに詳細にみるために他のコア・ジャーナル調査との比較を行った。

コミュニケーション学雑誌群の引用調査としてBorgman他の調査がある。この調査ではコミュニケーション学のコア・ジャーナルとして20誌が選定されている。これを第5表に示す。この表と今回の調査結果を比較すると、Borgmanの20誌中、3ステップマップに現れた雑誌は6誌のみである。これは2ステップマップでも同様である。2誌が「広い意味での心理学」に含まれており、4誌が「コミュニケーション」に含まれ

ている。この6誌を改めて愛知淑徳大学図書館所蔵誌と照合すると、このうち3誌がコミュニケーション学科発注で、Communication Monographs, Communication, Public Opinion Quarterly は言語文化コース発注の雑誌であった。

第5表 Borgmanのコア・ジャーナル20誌⁹⁾

Central State Speech Journal
Columbia Journalism Review
Communication
Communication Education
Communication Monographs
Communication Research
Educational Communication and Technology Research
Human Communication Research
Journal of Broadcasting and Electronic Media
Journal of Communication
Journal of Technical Writing and Communication
Journalism Quarterly
Language and Communication
Media Culture and Review
Quarterly Journal of Speech
Speech Communication
Telecommunication Policy
Writng Communication
Public Opinion Quarterly

また愛知淑徳大学のコミュニケーション学科は教員の出身等から心理学の傾向が強いとされる。心理学分野のコアジャーナル調査は広く行われているが、最近の調査として榛田の調査がある¹⁰⁾。

第6表 榛田による心理学コアジャーナル 25誌¹⁵⁾

Journal of Personality and Social Psychology
Psychological Bulletin
Psychological Review
Perception and Psychophysics
Journal of Experimental Psychology: Learning Memory and Cognition
Journal of Abnormal Psychology
Science
Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance
Child Development
American Psychologist
Journal of Educational Psychology
American Journal of Psychology
Behavior Research and Therapy
Nature
Journal of Applied Psychology
Cognitive Psychology
British Journal of Psychiatry and Journal of Mental Health
Archives of General Psychiatry
Memory and Cognition
Psychological Report
Journal of Personality
Journal of Experimental Social Psychology
Journal of Consulting and Clinical Psychology
Psychometrika
American Journal of Psychiatry
Psychosomatic Medicine

榛田は1985年時点での心理学コア・ジャーナルとして26誌をあげている(第6表)これを今回調査の2ステップマップと比較すると11誌が重なった。このうちコミュニケーション学科が発注した雑誌は5誌であった。そしてこれらの雑誌はすべて第7図の斜線で示されるように「広い意味での心理学」の群れに含まれている。

(2)1991時点での所蔵雑誌からの調査であるので、この時点での予算の制約による所蔵誌の限界が明らかであること。

(3)ステップマップの手法は自然科学の分野で始められただけに、その分野での雑誌への引用の集中度の問題がある。特に今回の調査では、一部の雑誌の引用上位誌の集中度が弱く、ステップマップの分析に不向きであろうと考えられる雑誌が存在する。例えば、Journal of Communication は上位4誌（1位は自誌引用）への引用は全引用の8%に満たない。そして“ALL OTHER”とJ C Rでは称される引用回数の少ない“その他”への引用は80%以上を占めている。

今後雑誌の評価、所蔵の改善に関しては他の手法も併せてさらに詳細な分析が必要となろう。

参 照 文 献

- 1.生田正輝. コミュニケーション論. 東京, 慶應通信. 1989. 174p.
- 2.清水悦男. コミュニケーション研究叙説. 東京, 明治図書. 1984. 272p.
- 3.鮑戸弘. コミュニケーション. 東京, 筑摩書房. 1982. 280p.
- 4.Small, Henry. The relationship of information science to the social sciences: A co-citation analysis. Information Processing and Management. Vol.17, No.1, p.39-50(1981)
- 5.Paisley, William. Communication in the communication sciences. Progress in Communication Sciences. Vol.15, p.1-43(1984)
- 6.So, Clement Y. Citation patters of core communication Journals. Human Communication Research. Vol.15, No.2 p.236-255(1988)
- 7.Rice, Ronald E. et al. Citation network of communication journals, 1977-1985 cliques and positions, citation made and citation received. Human Communication Research. Vol.15, No.2 p.256-283(1988)
- 8.Rice, R. E. et al. Journal-to-journal citation data: Issues of validity and reliability. Scientometrics. Vol.15, No.3-4, p.257-282(1989)
- 9.Borgman, Christine; Rice, Ronald E. The convergence of information science and communication. Journal of the American Society for Information Science. Vo.43, No.6. p.397-411(1992)
- 10.Narin, Francis et al. Structure of the biomedical literature. Journal of the American Society for Information Science. Vol.27, No.1, p.25-45(1976)
(“ 生物医学文献の構造” 神門典子訳. 情報学基本論文集 I . 東京, 勁草書房, 1989. p.189-227.)
- 11.斎藤泰則. 引用分析からとらえた図書館・情報学雑誌群の構造. Library and Information Science. No.18, p.171-193(1980)
- 12.津田良成他. 引用文献からみた図書館・情報学雑誌の類別. 図書館学会年報. No.26, p.36-44(1980)
- 13.山崎茂明; 緑川信之. 引用文献による生理学雑誌の構造分析. Library and Information Science, No.18, p.195-208(1980)

14. 緑川信之他. 理工学諸分野の雑誌構造. *Library and Information Science*. No.20, p.63-80(1982)
15. 榛田倫子. 心理学分野におけるコアジャーナルの変遷. *Library and Information Science*, No.29, p.67-88(1991)